

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	平成29年5月31日 第2号
件 名	築地市場を再整備し、豊洲市場への移転中止を 求める請願
請 願 者	文京区本駒込五丁目15番12号 新日本婦人の会文京支部 代表 榎 戸 忠 子
紹 介 議 員	板 倉 美 千 代
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	総務区民委員会

請願理由

鮮魚や野菜など、生鮮食品を扱う中央卸売市場は、なによりも食の安全、安心を確保することが求められます。

豊洲新市場予定地は東京ガス工場跡地で、発がん性物質のベンゼンや猛毒のシアン化合物、ヒ素などの有害物質が高濃度で検出された場所です。しかも汚染の調査も対策も不十分で、盛り土も行われていませんでした。

今年1月の地下水モニタリング調査では、環境基準の79倍のベンゼンが検出され、3月の再調査でも100倍のベンゼンを検出、4月にも環境基準を大きく超える、ベンゼン100倍、ヒ素3.4倍が検出されました。

豊洲新市場予定地の土壌と地下水は、広範囲にわたり汚染されていることが明らかになりました。

5月18日の都の専門家会議では「環境基準以下とする目標は達成されていない現状を真摯に受け止める」としながら、平田健正座長は「環境基準以下にすることは目指していない」と発言し、市場業者からも怒りの声が噴出したと報じられています。

「土壌汚染はすべて除去する」という、都の都民への約束は守られていません。農林水産省は、汚染を除去せずに「生鮮食料品の用地とすることは想定し得ない」という見解を出しています。

5月25日に都は築地市場の土壌調査で有害物質が検出されたと発表しました。日本環境学会元会長 畑明郎氏は「いずれも土壌基準値の10倍以下の低濃度であり、汚染は局所的といえる。豊洲の高濃度、広域汚染とは質・量ともに異なる軽微な汚染と言える」と見解を発表しています。

築地市場は、進駐軍に接収された時代にドライクリーニング工場やガソリンスタンドがあったために汚染されたのではないかということですが、豊洲新市場のように何十年間も大量の汚染物質が垂れ流された場所とは質的にも量的にも異なります。

食の安全・安心が保障されなければ、市場としての機能は果たせません。水産仲卸業者の7割～8割が豊洲移転ではなく築地で再整備を、と言っています。ただちに、築地市場の豊洲への移転を中止し、都民参加で現在地再整備をふくめた計画の本格的検討を行うことを強く求めるよう、都へ要請して下さるよう請願いたします。

請願事項

- 1 食の安全・安心が第一の立場から築地市場を再整備し、豊洲市場への移転を中止するよう、都へ要請してください。